



総務委員会では、会員諸氏の経営診断やコンサルティング業務等の遂行をサポートするため、平成24年度よりビジネスコンビニ事業として事務機器や備品の整備を進めてきています。その一環として本年度は高速カラーデジタル複合コピー機(製本機能付き)を導入しました。使用規約や

使用料金表等が整いましたら改めてご案内いたします。有効にご活用くださるようお願いいたします。また、ビジネスコンビニ事業に関する要望事項がありましたら、総務委員会までお知らせください。
(総務委員会 奥村隆夫)

研究会スケジュール

問い合わせ先：078(362)6000

● 診断技術向上研究会

日時	場所	テーマ	講師
7月11日(木) 18:30~20:30	兵庫県民会館 302号会議室	未定	未定
8月8日(木) 18:30~20:30	兵庫県民会館 302号会議室	未定	未定
9月12日(木) 18:30~20:30	兵庫県民会館 302号会議室	未定	未定
10月10日(木) 18:30~20:30	兵庫県民会館 302号会議室	未定	未定

※開催日は原則、毎月第2木曜日。時間：18:30~20:30。
会場：兵庫県民会館内会議室。

● 地域産業活性化研究会

日時	場所	テーマ	講師
7月3日(水) 18:30~20:30	協会事務所	ひめきた&播田線沿線 地域活性化支援策の検討	研究会員全員

※開催日は原則、毎月第1水曜日。開始時間は18:30~20:30
※連絡先：代表 大場一正 kohba@alles.or.jp

● オンリーワン経営研究会(HOO)

日時	場所	テーマ	講師
6月24日(月) 18:00~20:00	協会事務所	オンリーワン事例 候補企業発表	千田 徹夫 久保田 稔

※連絡先：中島 和樹 nrj21477@nifty.com

● BSC研究会

日時	場所	テーマ	講師
6月28日(金)	協会事務所	TOCを活用した 中核問題抽出手法及び その解決策策定手法の開発	参加者全員
7月26日(金)			
8月23日(金)			

※開催日は原則、毎月第4金曜日。開始時間は18:00~20:00
※連絡先：奥村隆夫 okumura@cvn.bai.ne.jp

● プロコンスキル研究会

日時	場所	テーマ	講師
7月9日(火) 18:30~	未定	未定	柳・小畑 (進行：西口)
9月10日(火) 18:30~	未定	未定	未定

※開催日は原則、奇数月の第2火曜日
※連絡先：西口 延良 nishiguchi@chuokai.com

● 青年部会

日時	場所	テーマ	講師
7月1日(月) 19:00~21:00	未定	未定	未定

※開催日は原則第1月曜日19:00~21:00
※参加資格：49歳以下の支部会員
※連絡先：小畑 秀之 obata@sodateru.co.jp

委員会報告 1月~5月

● 会員研修委員会

委員会開催日	主な議題
1月11日(金)	日銀セミナー・企業内診断士祭りの開催準備など
2月1日(金)	同上及びH25年度運営方針・予算の検討など
2月19日(火)	企業内診断士祭りの運営及びH25年度予算案の検討
3月21日(木)	協会総会議案書(H25年度実施セミナーなど)検討
4月19日(金)	会員研修委員会H25年度方針及び新「研究会」対応
5月10日(金)	H25年度に実施するセミナー・イベント等の検討

● 広報委員会

委員会開催日	主な議題
1月15日(火)	2013年度の事業計画について
2月12日(火)	ホームページリニューアルについて
3月11日(月)	2013年度の事業計画と予算策定
4月8日(月)	診断ひょうご6月15日号コンテンツ企画
5月14日(火)	診断ひょうご6月15日号校正

【事業報告】
ホームページは、昨年度、一般社団法人化とともに一部名称のみを変更している。今後法人格を有する団体として、また、会員の広報ツールとして活用することができるコンテンツを検討している。診断ひょうご6月15日号を発行した。

● 総務委員会

委員会開催日	主な議題
1月16日(水)	1. 経営診断実務研修事業の収支決算について 2. 第2回社員総会議案書の作成日程について 3. 来年度の総務委員会の事業予算案について
2月13日(水)	1. 第2回社員総会の準備スケジュールについて 2. H25年度のビジネスコンビニ事業の事業計画について
3月13日(水)	1. H24年度の会員数の移動について 2. H24年度の収支見直しについて 3. 総務委員会のH24年度事業報告案とH25年度事業計画案について
4月17日(水)	1. 第2回社員総会の準備について 2. 当協会のH25年度設備投資計画について 3. H25年度理論政策更新研修について
5月8日(水)	1. H25年度の総務委員会における役割分担について 2. ビジネスコンビニ事業の実施計画について 3. H25年度理論政策更新研修について

【事業報告】
「ビジネスコンビニ事業」の一環として高速カラーデジタル複合コピー機(製本機能付き)を導入しました。今後、プロジェクターの買い替えや事務所内の無線LANシステムの整備などを検討していく予定です。

● 受託開発センター委員会

委員会開催日	主な議題
2月12日(火)	平成24年度 受託実績の確認 平成25年度 受託計画の作成

(4月は年度初めで動きが少ないことから委員会は開催せず、次回は6月に開催予定)

【事業報告】
平成24年度は計画を上回る実績となった。平成25年度は昨年度計画と同水準の計画とした。新たな受託案件として、信用保証協会、兵庫県農政環境部、兵庫県健康福祉部、などとの協議が進んでいる。

編集後記

例年、6月号には総会報告をメ切りを遅らせて突っ込みます。会員の皆さん、協会の活動にもぜひ興味を持ち、ご意見を遠慮なく言っていただきたいと思います。診断ひょうごがそうしたやりとり場になれば面白い機関誌になるのではないのでしょうか。(湯)



No.99
平成25年6月15日発行

診断ひょうご

一般社団法人 兵庫県中小企業診断士協会 発行者 相良 紘
〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-8-4 神戸市産業振興センター8F
TEL (078) 362-6000 FAX (078) 361-8722 URL: http://www.shindan-hg.com

新たなスタートラインにある 中小企業診断士



一般社団法人
兵庫県中小企業診断士協会
会長 相良 紘

昨年12月に自民党が政権復帰し、そこで打ち出された経済政策が総称してアベノミクスとされています。いわゆる3本の矢「大胆な金融緩和」、「機動的な財政投資」、「民間投資を喚起する成長戦略」で構成されていますが、これに伴い円安・株高が進行し、景気の好転ムードが漂っています。株高はさておき、円安は輸出を中心とする企業にとっては有利に働きますが、輸入原材料に頼っている企業にとってはコストが増大します。

次に平成24年度の補正予算は13兆1千億円という規模であり、これに伴い経済活性化の起爆剤にしようというのですが、次世代に大きな負担を残すことは確実です。これらの政策が功を奏すかどうか、経済評論家や学者たちの間でも意見が分かれているところです。

最後の成長戦略が一番大切で、これが実らないことには本当に経済が好転したとは言えないでしょう。しかし、いずれにしても閉塞状態におかれていた日本経済にとって、成長に向けた出口戦略となることを期待したいものです。

中小企業診断士に求められる役割とは

金融円滑化法にかわる新たな中小企業支援施策として「中小企業経営力強化支援法」の制定や、「経営革新等支援機関認定制度」もできました。認定機関数は本年4月26日現在全国で8,165機関と発表されていますが、中小企業診断士は153という少なさです。中小企業診断士が本制度に認定されるにはハードルが高いと言われていますが、これはそもそも中小企業診断士制度そのものに由来するものです。詳しい説明は省きますが、要は中小企業診断士の専門性が見えない(わかりにくい)といったことが大きな理由です。

確かに中小企業診断士が支援する中小企業は多業種であり、その事業内容や運営形態等も多種多様です。一方、中小企業診断士の資格を得るには広範囲にわたる知識を取得しなければなりません。また前述のように支援する中小企業や支援内容も広範囲にわたっています。しかし中小企

業診断士といえども万能であるわけではありません。それぞれが得意分野を持っており、その得意分野を生かして中小企業支援に当たっていかねばならないでしょう。こういった点からも中小企業診断士の専門性を高めていく必要があります。

平成17年に発表された「中小企業政策審議会経営支援部会報告書」によると、中小企業診断士に求められる役割として、①「民間経営コンサルタントとして中小企業を全社的視点で経営について、診断・助言をすること」②「『民間事業者を活用して行う』公的な事業としての中小企業支援事業に『民間事業者』として参加し、中小企業の利益の最大化を図るために、行政、専門家との橋渡し役になること」の2点が求められています。すなわち中小企業診断士は自らが中小企業の全ての課題を解決するのではなく、企業のアドバイザーとして種々の相談に乗りながら、課題に応じて信頼できる専門家にも援助を依頼し、解決まで支援していくことが求められています。

新たな業務の拡大に向けて

ところで兵庫県中小企業診断士協会も新法人移行後1年を経過しました。ここにいたるまでに公益法人制度改革の中で本部も各支部もどのような組織にしていけばいいか、この数年間本来の活動がやや低迷したのは事実でしょう。しかし一段落した現在、会員の皆様の協力のもとに新たな業務の拡大が実りつつあります。

また、この度「地域需要創造型起業・創業補助金」の地域事務局に兵庫県中小企業診断士協会が採択されました。このことにより、診断士協会の認知度が広まり、また活動内容等を知らしめる機会もできました。金融機関や商工会・商工会議所や他の中小企業支援機関とも広くネットワークを構築して協会活動の活発化を進めていきたいと思っています。会員の皆様のご協力も引き続きよろしくお願い致します。

受講生よし、県協会よし、講師関係者よし 三方よし プロコン育成塾100名を超えて

プロコン育成塾初代塾長 福島 繁

「今は名もない診断士、いつかありますプロコンに……。第8期も「プロコン育成塾の唄」を合唱し打ち上げとなった。当塾は8年前2005年にスタートし修了生総数は念願の100名を超え102名となった。この機会に関係者の想いを代弁しつつ、当塾の歩みや特色、成果等を振り返る。

真剣勝負の塾内報告会

2月16、17日、今年も恒例の塾内報告会を実施した。1人1社、14企業の経営診断報告会である。約3ヶ月かけて調査・分析した結果を30分で報告する。塾生は最終まとめであり精魂をこめプレゼンに務める。一方、講師陣にとっては受講生が1人でプロコン業界へ飛び出す最後のチェック機会であり徹底した批評・指導をする役割がある。「一般論は評論家のやること、プロコンなら具体的改善策を出せ！」等の厳しい叱正・助言が飛び交う。「斬るか、斬られるか」の経営診断の厳しさを徹底し教える。これらを踏まえ各企業の最終報告会へ向かう。

多方面で活躍を始めた修了生

修了生は102名。内、独立プロコンは60余名、受講時に既に独立していた人を含めると起業率60%である。経営全般指導に取り組み始めたジェネラルコンサルタント、業種特化型コンサルタント、部門特化型コンサルタント、公的機関連携型コンサルタント等である。また、現在は経営コンサルタントではないが次のような様々な分野で活躍している人もいる。企業内診断士、大学講師、公認会計士、税理士、牧師、大学ラグビー一部監督、経営者等多士済々である。各自が持ち味と当塾の修練を活かしそれぞれの分野を切り開き活躍している。頼もしくもあり嬉しい限りである。

「民間企業に通用する経営

コンサルタント育成」-塾の設立目標-

「中小企業診断士資格は取れたが実際のコンサルティングが出来ない」「公的機関の仕事は出来るが民

間企業のコンサルティングでは力不足」等の意見が従前よりあった。2005年、当時の診断協会兵庫県支部の坪野克彦氏等の有志から「民間企業でも活躍できるプロコンを育成しよう」との声が上がった。「やる以上は診断士3次実習レベルの焼き直しではダメだ」「人生を賭けて経営をしている経営者と対峙できる実践的な基礎能力を鍛える必要がある」等の議論を重ねる。こうして「プロコン育成塾第1期」の実施計画がまとまりスタートした。



受講生の前で熱弁をふるう筆者
(2012年10月)

試行錯誤の連続 -塾の歩み-

1) 第1の壁:講座カリキュラムの整備

1年目の受講生は13名。講義や診断実習がカリキュラムどおり実行できるかどうか関係者全員がヒヤヒヤしつつ夢中で取り組む。ところが、毎回の終了アンケートを見ると意外に好評だった。そこで翌年も継続、再挑戦となった。3年目が終了し、やっと講座内容、運営面を含め継続できる自信が湧いてきた。毎年、受講者満足度を点検し講座のスパイラルアップを図っている。

2) 第2の壁:受講者募集の苦労

第4期頃から受講生募集が難しくなってきた。兵庫県支部周辺のみで15名定員を集めにくくなる。そこでいろんな対策を打つ。他支部へ案内レター発送、本部診断ニュースへPR投稿、塾ブログ開設等……。また、この募集が苦しい頃、逆に当塾の継続が是非、

必要との想いが明確になる。そこで毎回の参加人数とは別に大場一正・現塾長とも相談し中期目標100名を掲げた。その目標も関係者の尽力で達成できた。100名の目標を掲げていたからこそ脱落することなく継続できたとも言える。中期目標の重要性を再認識する。

3) 第3の壁:修了生のアフターフォロー

プロコン育成は10回コースのカリキュラムのみで仕上がるものではない。独立、開業を始めた人にはアフター支援が必要である。また、実際のコンサル中、1人で悩む問題も多く出てくる。そこで塾修了生を対象とするプロコンスキル研究会を設置することになった、2ヶ月ごとケース事例を出し合い活発な相互研鑽が進んでいる。

塾の特色

1) 講師が実践体験を紹介

各講師はそれぞれの実践体験、成功例、失敗例を赤裸々に語る。教科書的な一般論でなく実践例を通じて①コンサル信条②コンサル実践法③独立後のステップアップ法等を紹介する。

2) 独立時に役立つプロコン基本能力の指導

プロコンの能力レベルも「一人前」「一流」「ナンバーワン」等段階がある。当塾の役割は最初の「一人前」として立ち立できる基本能力<「話す」「書く」「診る」「創る」「獲る」等>の指導である。まず基本講義を行う。そして「スキル洗い出し」「商品づくり」「スキルアップ計画」「プレゼン」「企業診断」「報告書添削」の演習をする。「鉄は熱いうちに打て」。毎回、全講師が輪番で個人アドバイスをを行い厳しく指導する。

3) 1人1社制の経営診断

3次実習(実務補習)では複数メンバーによる診断演習であった。これは衆知を吸収し合う良い面もあるが反面、部分最適になりがちである。それに対して当塾では経営視点を重視する。1人で全責任を持ち全体最適の経営診断に挑む。

4) 120%主義の伝授

顧客に期待以上の120%の成果を与えてこそプロコンの仕事と言える。どんな課題、サービスもこれを強調する。そして最終日には塾長が「プロコン基本10カ条」の講義をする。「成果主義、実践主義」プロコンサルタントと「診断ごっこ」コンサルトの違いを厳しく教示する。

塾の成果

1) プロコン育成の環境づくりが進む

プロコンも技法を教えるのみでなく育てる環境

づくりこそ重要である。当塾でプロコンの「心・技・体の基本」を教育する。修了後はスキル研究会で個別のフォローをする。続いて当県協会の特長である受託開発センターと連動し受注応募に参加する。一連のプロコンを育てる環境づくりが進んできた。

2) 県協会の会員増、活性化へ貢献する

過去の修了生の多くが県協会へ入会し、会員増へ貴重な寄与をする。また、研究会や委員会に参加し積極的に活動している。そして県協会理事へも多数が選任され、協会活性化に新風を吹き込みつつある。

3) 講師関係者も自己修練の場となる

教えることは同時に学ぶこと。各講師は自ら毎年、プロコンの原点に戻り指導法を振り返る。そして講義テキストは毎回、推敲・改訂する。事務局も120%サービスの塾運営をめざし工夫する。講師陣・事務局にとっても当塾は自己修練の場、自己鍛錬道場である。

結び

「一人前」から「一流」「ナンバーワン」へと、プロコン修練の道はまだまだ遠く続く。当塾はその出発点である。その基点が「受講生よし、県協会よし 講師関係者よし」で成長できたことは評価できよう。我々、経営コンサルタントは仕事上、「人財育成の重要性」をしばしば唱える。まさに足元の協会活動でそれに関与できたことを各関係者に感謝したい。筆者は今8期をもって講師を引退させていただく。共に汗した講師・事務局陣に改めて御礼を述べたい。最後に当塾の今後の益々の発展を祈念する。

「身を削り 人に尽くさん すりこぎの
その味 知れる人ぞ尊し」
(曹洞宗:永平寺)

<第9期案内は当塾公式ブログ

<http://procon-ikuseijuku.seesaa.net/>参照>



一昨秋、神戸市内のホテルで開かれた「修了者の会」。修了生、講師合わせて約40名が出席した。年に1回、懐かしい顔ぶれが集まり旧交を温めている。

新入会員紹介

石田 昌廣 (いしだ まさひろ)



昭和54年登録。兵庫県支部には、昭和54年から平成3年まで12年間所属しておりました。その後、富山県支部、福井県支部、大阪支部、愛知県支部を転々とし、今般、商工中金から神戸商工会議所（西神戸支部配属経営指導員）への出向に伴い、兵庫県に帰郷することになりました。これを機会に、多くの診断士の皆様と交流し、一人の限界を克服してチームで成果があげられるように研鑽したいと思っております。そして、ふるさと兵庫県の産業の発展のために尽力する所存でありますので、よろしくお願い致します。

岡田 明穂 (おかだ あきほ)



はじめまして。診断士登録は平成8年、その後、5年間のコンサルティングファームでの修行、神戸のあるベンチャー企業での取締役経営企画室長としての10年間の実務経験を経て、昨年7月より独立診断士として、理・美容サービス業を主対象に活動を始めました。しんどくても、懸命に工場を、家族を守り続ける、私の両親は、そんな町工場の経営者でした。実家の町工場はもうありませんが、両親の様に、頑張っている中小企業経営者のパートナーとして伴に取り組みすること、それがミッションです。よろしくお願い致します。
URLは、<http://amm-hira.com/>

神谷 邦男 (かみたに くにお)



この度、入会させていただくこととなりました神谷邦男です。昨年の診断士試験に合格したばかりで、現在大阪の企業にて経理業務を行っている企業内診断士です。診断士としての診断活動はまだ行ったことはありませんが、現在、診断士試験受験対策本の共同執筆活動に参加しております。企業内診断士ではありますが積極的に様々な事に挑戦していこうと思っております。また、協会の活動にも積極的に参加していこうと思っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。
趣味・特技 マラソン

黒野 秀樹 (くろの ひでき)



繊維卸商社勤務を経て平成12年に独立開業。23年間営業畑一筋でマーケティングを中心に戦略策定、店舗施設管理などを専門分野としてサポートさせていただいております。大阪を拠点に活動しておりますが、兵庫県商工会連合会チーフアドバイザーとして平成17年から2年間務めさせていただきましました。数年前よりコミュニティビジネス・ソーシャルビジネスのご支援にも注力し、社会や地域の課題をビジネスの手法を用いて解決する、新たな社会資本の形成に微力ながら貢献することを喜びと感しております。ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

小林 謙祐 (こばやし けんすけ)



はじめまして、小林謙祐と申します。平成24年4月に中小企業診断士の登録をしました。現在、会計事務所に勤務している企業内診断士です。勤務先では、担当先中小企業に対して、税務会計を中心に資金繰り、経営計画の策定、事業承継対策なども行っております。企業経営に関与して感じることは、経営者には外部アドバイザーが必要であることです。今後、その必要性・重要性は高まると考えています。私は、長年の会計事務所での経験と診断士の資格を活かし、企業経営者の良きアドバイザーとして活動していきたいと考えています。未熟者ですが、これからよろしくお願い致します。

清水 通代 (しみず みちしろ)



後継者不足等のため、円滑な経営承継が出来ずに廃業に追い込まれる企業数は、年間数万社を下りません。このことは雇用の立場からみても、また地域活性化の観点からみてもいかにも残念なことであります。中小企業にとって経営承継は単なる相続対策ではなく、経営の一大イベントであります。経営の引き継ぎについて悩んでおられる中小企業の経営者並びに後継者の良き相談相手となり、円滑な経営承継を推進します。

田口 雅樹 (たぐち まさき)



これまで特別会員（準会員）として登録していましたが、4月の独立を機会に、3期プロコン育成塾以来ご縁をいただいていた兵庫県中小企業診断士協会の正会員となりました。マーケティング、特に12年間PR会社で携わってきたプレスリリース（広報PR）が専門分野です。サラリーマン時代以上に協会の活動や皆さまとの交流を活発化し、今後よりいっそう精進していきたいと考えております。何とぞよろしくお願い致します。

塔筋 幸造 (とうすじ こうぞう)



平成24年4月に中小企業診断士に登録をさせて頂き、ほぼ同時に協会のメンバーとならせて頂きました。いろいろな方々のアドバイスを頂戴しながら、協会の活動にも少し参加させて頂いております。感じるのは協会の皆様がとても真摯な紳士と淑女であるということです。今後は、自分のポリシー「商売は芸術・経営はアート」を大切にしながら、中小企業診断士の役割を果たしていけるよう研鑽に努めたいと思います。主宰させて頂いている「神戸経営研究所」ともどもよろしくお願い申し上げます。
神戸経営研究所 <http://www.kmba.co.jp/>

東松 英司 (とうまつ えいじ)



昨年兵庫県協会に入会しております、東松と申します。2年前に診断士登録した時はまだ企業内でしたが、半年後には後先も考えず独立いたしました。プロコン育成塾にて専門性を持つことの重要性を学び、自分だからこそできることは何かを考え、導き出した答えが「農業支援」という分野でした。昨年10月に当協会の公募セミナーでお話させていただいた概要を前号3ページに掲載いただいておりますので、ご覧いただければ幸いです。農業や農産物をテーマに、産地の活性化に繋がってきたいと思っています。よろしくお願い致します。
URLは、<http://www.facebook.com/Sanchi.Keiei.Support/>

中川 智 (なかがわ さとる)



2012年度に登録・入会することになりました中川と申します。数年前まで関西の大手電機メーカーで技術開発担当としてお世話になっておりましたが、故あって現在の中小型船用ディーゼルエンジンメーカーに転職することとなり、経営企画の仕事をするようになりました。知識も経験も全くなしの分野で、なんとか生きていこうと中小企業診断士の資格を取得し、現場に活かそうと試みています。まだまだ、実際の仕事に顕著な成果はでませんが、中小企業診断のノウハウを培って、少しでも誰かのお役に立てるとともに自己実現の場を得たいと願っています。

中野 悦男 (なかの えつお)



はじめまして、中野と申します。平成25年3月に診断士登録を致しました。現在、ソフトウェア開発会社で品質管理部門に所属して、プロジェクトのレビュー、内部品質監査を担当している企業内診断士です。これまで中小企業にとって、ITは手が届きにくい領域であったと思いますが、昨今のスマートフォン、クラウドなどの普及で、流れは変わりつつあると思います。PMI日本関西での研究活動も行っており、ITの分野とも併せて専門性を活かすことで中小企業の支援を行えるようになっていきたいと考えております。よろしくお願い致します。

初田 洋介 (はつだ ようすけ)

2005年登録の初田洋介と申します。メガバンクで16年勤務、企業再生専門のコンサルファームで約2年実務経験した後、2011年に独立開業いたしました。現在は、数県の中小企業再生支援協議会の登録専門家としての活動を中心に、企業再生支援をドメインとして活動しています。今後とも、よろしくお願いたします。

平山 喜世治 (ひらやま きよじ)

みなさん、こんにちは。平山喜世治と申します。神戸の情報サービス会社に勤務する企業内診断士です。経理部門に20年在籍しており、財務会計・管理会計・原価計算などが得意分野です。また、システム監査技術者などの高度情報処理技術者の資格を活かし、ITを活用した業務効率化やデータ分析も得意としています。平成22年に中小企業診断士登録後、しばらくの間、協会への入会は見合わせていましたが、企業内診断士として活動の幅を広げていきたいと思い、このたび入会させていただきました。今後ともご指導のほどよろしくお願いたします。

松浦 邦成 (まつうら くになり)

昨年3月兵庫県立大学養成課程修了により資格取得。本年4月独立の元県庁マンです。現在は、ヒト（経営者）とヒト（従業員）との良好な関係を構築し、事業の健全な発達が図られることに喜びを感じて走り回っている駆け出し診断士です。大学卒業後は鉄道会社、県庁にて主にコミュニティビジネス、能力開発、看護師確保対策、県議政務調査、交通政策、総務防災、不動産、商業開発等を経験しました。今後は、元気とフットワークの良さで色々な人と出会い、地域活性化のためにもお役に立ちたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。

URLは、<http://www.oebashi.net/>

山本 憲司 (やまもと けんじ)

皆様、初めまして。このたび兵庫県支部に入会致しました山本と申します。兵庫信用金庫に勤務しております。経理事務を担当しています。企業を財務面だけでなく、販売、生産、人事などあらゆる面からみて支援していく診断士という資格に興味を持ちました。信用金庫にとってお客様の多くが中小企業の方々であり、中小企業支援に注力することは本業に注力することと考えています。今後は、自己研鑽を通じ少しでも中小企業の方々の役に立ちたいと考えています。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願致します。

吉田 喜彦 (よしだ よしひこ)

73年、奈良生まれ。中小企業と大企業の管理職を経験した中小企業診断士であり、営業と経理の経験を持つIT技術者です。京セラアメーバ経営では経営管理統括部にて管理職の任に就き、その職務に務めてきました。IT技術者としては、十数社のプロジェクトに参画し、様々な業務システムの導入や保守運用を行ってきました。2013年4月からは、企業の価値を磨き、次世代につなぐサポートをするため独立しました。また、診断士の活躍の場を広げ、認知度を向上させることも目指したいと考えています。今後ともご指導の程、宜しくお願致します。

渡辺 明 (わたなべ あきら)

2012年4月に診断士登録、5月に前職を早期退職、6月に当協会に入会させて頂きました。製造業（半導体）の製造部門の組織運営を通し生産現場における業務改善（生産性・品質向上、原価低減、5S、QC活動）や組織・人材育成、および企画管理部門で事業計画・運營業務などに、約23年にわたり携わってきました。これら現場視点と経営視点の両面からの業務経験と知識をいかし、企業の「カイゼン」のお手伝いを生業として参りたいと存じます。皆様、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願申し上げます。

このほか 芦田一己、梅林守、及川朗、小川雅弘、金丸一馬、亀井芳郎、児玉信一、高松留美、谷川桃太郎、天良勝の10氏も入会されました。

第2回社員総会が開催

社員総会で挨拶する相良会長

（一社）兵庫県中小企業診断士協会第2回社員総会が、去る平成25年5月23日に神戸市産業振興センターにおいて開催されました。

第1号議案「平成24年度事業報告書(案)及び、貸借対照表、損益計算書の承認に関する件」についての報告と会計監査の結果報告がありました。若干の質疑応答の後採決の結果、第1号議案は可決承認されました。第2号議案「平成25年度事業計画(案)及び収支予算書(案)の承認に関する件」について説明があり、若干の質疑応答の後可決承認されました。

次いで、（一社）中小企業診断協会会長表彰が、福島繁、上住好章両氏に授与されました。

閉会に先だち、ご来賓としてご臨席いただきました兵庫

県産業労働部産業振興局経営商業課課長・足達和則様、(公財)神戸市産業振興財団専務理事・澤木健夫様よりご祝辞を賜りました。

最後に、相良会長が閉会の挨拶を行い、第2回社員総会は滞りなく終了いたしました。

総会終了後、神戸市産業振興センター・レセプションルームに会場を移し懇親会が催されました。

懇親会には、例年ご参会いただいている兵庫県産業労働部、(公財)ひょうご産業活性化センター、(公財)神戸市産業振興財団、兵庫県商工会連合会、兵庫県中小企業団体中央会、神戸商工会議所、商工組合中央金庫神戸支店、日本政策金融公庫神戸支店、近畿税理士会神戸支部などの他、本年より新しく(独法)中小企業基盤整備機構近畿本部、兵庫県信用保証協会、神戸市産業振興局、日本公認会計士協会兵庫会よりご来賓の参会を賜り、またそれぞれの代表の方より我が協会の中小企業に対する経営支援活動について期待と叱咤激励のお言葉をいただきました。参会した会員諸氏は、ご来賓の方々との対話を通じ交流を深めさせていただくともに、和やかな一時を過ごしていました。

地域需要創造型等起業・創業促進事業(創業補助金)**当協会が兵庫県事務局に採択**

常任理事 宇田 名保美

創業補助金兵庫県事務局として活動しています。

中小企業診断士としての役割

補助金を本当に有効活用することができる創業者は、補助金をあてにせずに事業計画を策定している事業者だと思えます。このような創業者は補助金情報を一生懸命探しているわけではありません。そのような方に当事業の情報を伝えることができるように、インターネット活用はもちろん、経営・創業支援のプロ集団である当協会会員の方にご協力いただいた広報活動を計画し、予算化しています。その他にも事務局の基本機能である事業計画審査や補助金交付の際に必要な確定検査等の業務も当協会会員向けにもメール配信システムを利用して公募する計画です。

このような活動によって創業支援だけでなく様々な中小企業を支援している「中小企業診断士」の認知度向上を図るとともに、県協会会員の皆様の外部ネットワーク構築に役立つよう事務局を運営することが重要だと考えています。会員の皆様のご協力よろしくお願いたします。

昨年秋に「来年度は創業者が補助金を活用できる」との新聞記事。この記事を目にしたとき、「補助金は利用する方によって「毒」や「麻薬」のようになってしまう。特に創業段階からこれを利用する場合には、専門家の支援が必要だろうな。」と考えていました。

法人格を有したからできたこと

上記の発表から半年後、中小企業庁のホームページで、「地域需要創造型等起業・創業促進事業」に係る事務局募集説明会が発表されました。創業者が活用できる補助金を県単位で運営する事務局の募集でした。募集期間が短期間だったため、正副会長の了承を得て説明会に参加しました。法人格を有して1年足らずの県協会としての実績は記載することができなかったため、個人的ではありますが中小企業診断士としての創業支援実績と広報活動を重視した事業計画で応募しました。その結果、補助金公募発表と同時に県協会が事務局として採択された旨のメールが届きました。法人格を有したとはいえ、まだ1年未満の団体、予測していなかった採択でした。そのため、急遽体制を整備し